

3つの峠を通り、峰入り道へ

= 渋い、渋すぎる好ルート =

【報告者】Dr

【日時】2020年5月13日

【天候】晴れ

【参加者】Dr

《コースタイム》

8:15 小石原 道の駅～8:30 嘉麻峠 10:00 大藪峠 ～12:45 長谷峠 ～ 13:50 陣尾
～ 14:10 小石原集落 ～ 14:30 小石原 道の駅

《概 評 》

コロナのため県境を超える山行はご法度。なら、県内で以前から温めていたルートを歩くことにした。

このルートは渋い。なぜなら、1) 道がない、記録がない 2) 眺望がない 3) 山頂がない の3無ルートだから。だからこそ、自分自身と向き合える、自分自身の登山への心が確かめられる、そして、誰にも理解されない快感を味わえるのである。

いささか気合が入りすぎて、息が切れてきたので、すこしレストして筆を進める。

《 報 告 》

平日の道の駅は閑散としている。準備を整えて道路を嘉麻峠に向かう。嘉麻峠にある大きな観光施設の先から林道にはいる。目標の尾根はすぐ見つかるが、横に広い道路があり、それを進む。そうしていると、ダンプカーが土煙をあげて追い越していった。どうやら産廃施設のようだ。広いなにもない台地を抜けて尾根に取り付いたら、作業服を着た男性が台地から叫んだ。大藪峠を目指していると叫び返すと、谷が違うという。尾根を伝っていくという信じられないといった風で戻って行った。尾根は、左は産廃施設のために伐採されており、見通しは良いが、味気ない。伐採地が終わると道がなくなり、



さっそく読図での尾根探しが始まる。産廃のため尾根を切り崩し、谷を埋めており、なかなか読めない。なんども間違い、スマホ GPS の力を借りて、尾根を探した。やがて、作業道が出てきて、作業道を進んだ、、、どうも違う。民家はあるが、道路がない。無人の民家に降り立ち GPS で確認すると、支尾根を下ってしまっている。作業道は信じてはならないという教訓を今回も生かせなかった。無念。



民家から道路を歩き大藪峠に進む。峠をすこし北側に進んだところで、林道との分岐から尾根に上がる。やっぱり道はない。緩い登り続き、木々の間から英彦山が見える。コースの最高標高を過ぎて、コースはヘアピンカーブを描き反対の南西の方向に向かう。ここに本コース唯一の眺望のある露岩がある。大日岳、岳滅鬼は見えるが、英彦山本峰は隠れて見えない。残念。露岩の上で休憩していると、鳥が鳴き声を上げて私の上で円を描いている。どうやら、私がかの鳥の縄張りに入ってしまった、かの鳥が、威嚇しているようだ。早々に退散する。途中から『従是北豊前国領（これより北、豊前領）』『従是南筑前国領』と彫られた石標が数十メートルおきに出てくる。豊前と筑前はそんなに仲が悪かったのかな¹などと想像してみる。



長谷峠にでる直前に作業道がでてきて迷わされる。長谷峠（新国道）を横切り、すぐ藪に入り、数百メートル進めば、旧道に出る。行者杉の林、大王杉などの巨木の森で一休みできた。

旧道を少し進むと行者堂がある。ここが峯入りの出発地点である。解説板を読むと、峯入り

¹ 江戸末期の第2次長州征伐のおり、豊前小笠原藩は、幕府譜代の大名であったため、幕府側につき、そのため廃藩置県のときに豊前県とならず、福岡県に吸収合併されたことが屈辱であったらしい。何よりも、平安時代より九州の玄関は小倉、豊津などの豊前であり、筑前福岡は、奥地であったわけである。豊前の人にとって、筑前は、成り上がりであったと考えられる。ついでに、筑豊という地域は筑前と豊前の間にあるので、筑豊と呼ばれた。嘉麻郡、穂波郡は筑前、田川郡は豊前に属していた。したがって、小石原は筑前、添田町は豊前である。

について知らないことがたくさん書いてある。まだまだ調べなければ²。

行者堂自体も不思議な空間である。本堂の目の前に石造りの円形の舞台がある。いったいこれは何だろう。想像の翼が広がる。

行者堂から峯に入る。ここからは、整備されたというわけではないが、そこそこ歩きやすい道で、峯入り道という標識もあるため、ルートファインディングもいらない。緩やかな短いアップダウンを繰り返して 675.7 ピークについた。そこで初めて、陣尾という山頂標識を見つけた。本日最初で唯一の登頂である。眺望はなく、これといった感慨もわからない。



下山は 610m あたりまで下り、地図上で南側に確認できる登山道を下ることにした。610m 地点にテープをみつけ見つけここが降り口と考え、下り始めるが、急傾斜となり、一向に登山道には出ない。いったん尾根にもどり、再度尾根を下るといつの間にか支尾根を下り、踏み跡を見つけた。昔は林道だったんだろうなと思える程度の沢沿いの道をたどり、無事、小石原の集落にたどり着いた。

小石原の集落は、奇妙なくらい静かだった。数年前の豪雨災害と、コロナのため観光客はいない。整備された石畳の道が切ない。

《 ま と め 》

全体を通して、藪はないが道はなし、眺望なし、ピークなしの普通なら魅力のない山であるが、身体的にハードではないし、静かで、一人考え事をしながら、あるいはルートファインディングを楽しみながら歩くには、とても良いルートだ。

これで宝満山から陣尾まで、一部（大根地から古処山まで）を除いて踏破できた。また機会を見つけて、大日岳、岳滅鬼、英彦山へとつなぎたい。また英彦山から福知山への峯入り道も探してみようか。これも楽しそうだ。

² 峯入りとは、平安期から続く山岳宗教の修行である。秘儀が多く、謎が多い。その専門の研究者がいるほどである。英彦山においては、春の峯入り（英彦山-宝満山往復 126Km）秋の峯入り（英彦山-福知山往復 136Km）があると言われているが、明治期の廃仏毀釈により途絶えて、詳細は不明である。したがってそのルートも正確にはわかっていない。この行者堂は、多くの堂、宿坊を持っていたことから、修行の重要な地点だと考えられている。